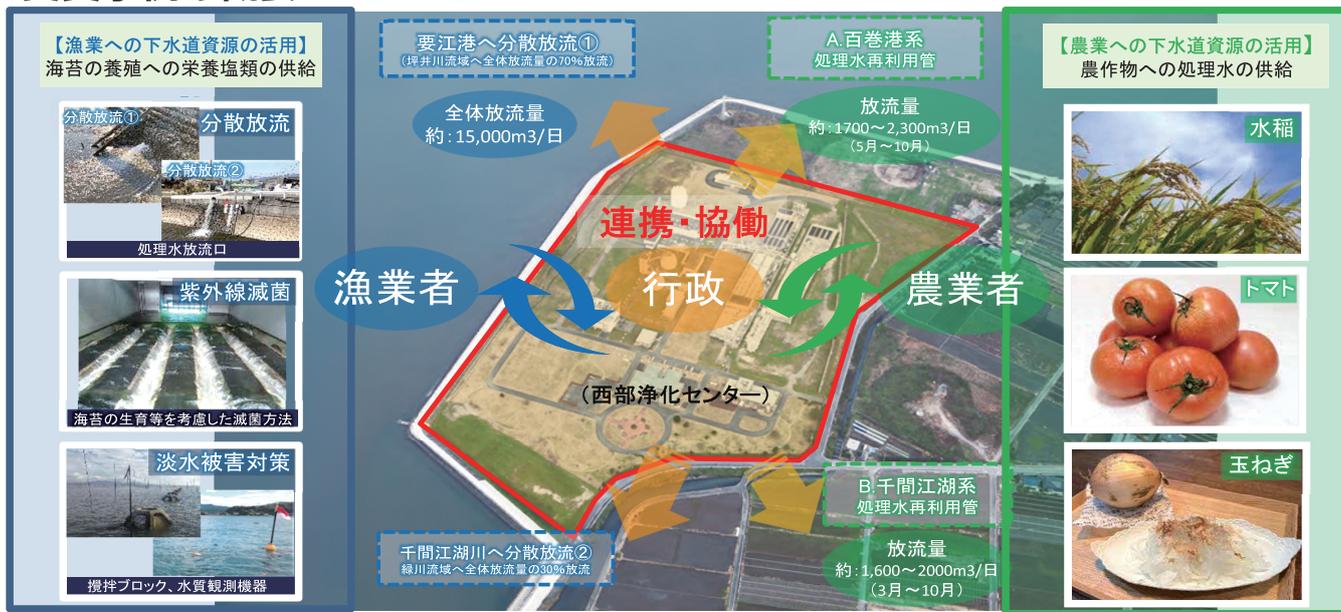


イノベーション部門

漁業・農業との連携・協働による下水道資源の活用 ～ 40年に及ぶ地域との信頼関係の構築～

【漁業者】熊本市7漁協、【農業者】熊本市西南土地改良区、【行政】熊本市

受賞事例の概要



PRポイント！

漁協者との連携・協働

「西部浄化センター処理水放流及び水産振興検討協議会」を毎年開催し、地元漁協と連携・協業しながら、能動的運転の調整や淡水被害対策などの事業内容を決めています。
★H8年から継続的に実施

農業者との連携・協働

「西部浄化センター処理水再利用連絡会議」を毎年開催し、地元土地改良区からのご意見をもとに、供給量の調整を図っています。
★H18年から継続的に実施

取組の効果！

漁業への効果

処理水放流に含まれる栄養塩類の活用や淡水被害対策の実施により、漁場環境が保全され、海苔の生育や品質の確保を実現。

農業への効果

処理水を農業用水に活用することで、対象となる農地への水不足の解消や塩害対策、さらには地下水保全へ貢献。



Key Person



熊本県漁業協同組合連合会
代表理事 会長 藤森 隆美

熊本市職員や学識経験者と十分に議論を重ね、信頼関係を築いてきました。そういったことから、下水処理水による栄養塩類を海苔の生育や品質確保に活用するため、分散放流や能動的運転などを実施できております。さらには、淡水被害対策も継続的に行い、連携・協業を行いながら、海苔養殖と下水道資源をベストミックスできた状態で、漁場が保たれております。今後も相互に信頼関係を深め、顔の見える関係性を維持していくことが重要だと考えています。

処理水利用の本格運用までの5年間、熊本市職員と試験田で水稲などの作付けを行い、品質確認を行いました。処理水を利用することで、水不足の解消や塩害対策、さらには地下水の使用量が減ることによる地下水保全及び地下水ポンプ施設の電気代の削減、農作物への肥料の削減効果に至るまで大きな効果が出ています。今後も行政と十分な連携・協業をはかり、地域に根差した取組みとして継続的に実施していきたいと考えています。



前 熊本市農業委員会
会長 森 日出輝